

拡張から維持管理の時代へ

一連の拡張事業が終了した後も、安定した給水を維持するため、老朽施設の更新・改良を実施してきたほか、繰り返される地震に対応するため、応急給水に係る施設の整備や管路・浄水施設の耐震化を進めてきました。

これまで右肩上がりが増えてきた水需要は、家庭での節水意識の浸透や事業所や工場における地下水の併用といった使用形態の変化などにより平成7年をピークに減少傾向が続いています。また、将来的な人口減少などから今後も水需要の減少傾向が続くものと見込まれたため、簡易水道事業の統合や浄水場の休廃止など、経営の効率化を図ってきました。

そのような中、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、管路の更新・耐震化のペースアップ、市立学校への災害時給水栓の設置等を実施し、また、新たに水道事業体等と覚書や協定を結び訓練を通して連携強化に取り組むなど、ハード及びソフト両面による総合的な災害対応力の強化を図っています。お客さまサービスの拡充に向けた取組みでは、平成19年1月に引越し受付業務などをおこなう水道局コールセンターを開設、平成26年に水道の漏水、修繕に関する問合せに24時間365日対応する水道修繕受付センターを開設するなど、さらなるお客さまの利便性の向上に努めています。

本市では令和5年で給水開始100周年となるこれまでの歴史を礎としつつ、新たな時代に向けて更なる飛躍を目指していきたくと考えています。

地域住民や他水道事業体との合同訓練



災害時給水栓の地域説明会



水道記念館の館内展示

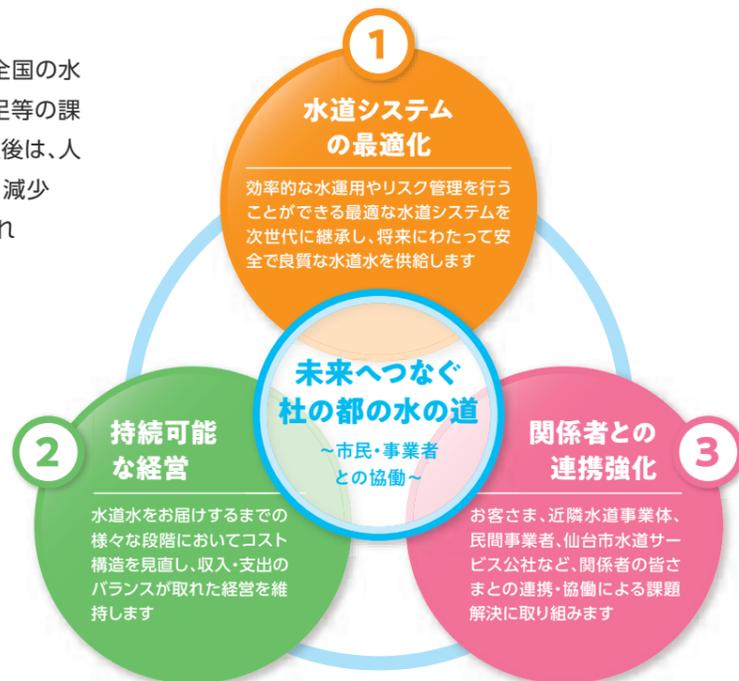


耐震管布設の様子



将来にわたる安定給水に向けて

近年、水道事業を取り巻く環境は大きく変化し、全国の水道事業体が、水需要の減少、施設老朽化、担い手不足等の課題に直面しています。本市においても、東日本大震災後は、人口流入により給水人口は増加したものの、まもなく減少に転じ、以後、減少が続く見通しとなっています。これにより水道料金収入の減少が見込まれる一方で、過去に集中的に整備した管路や主要浄水場の更新時期が順次到来します。施設の更新需要増大に対応するためのマンパワーについても、ベテラン職員の退職による技術継承等の課題があります。今後の100年の未来にも、仙台の水道を引き継いでいくために、市民・事業者の皆さまと協働して、こうした様々な課題に取り組み、安定給水に努めていきます。



給水開始 100th

仙台水道100周年 未来へつなぐ市の水の道

給水開始100周年にあたって



仙台市長 郡 和子

仙台市の水道事業は、大正12年3月に給水を開始し、今年で100周年を迎えました。その起源は、藩政時代、仙台藩祖伊達政宗公によって城下にはりめぐらされた「四ツ谷用水」にまで遡ります。その後も戦争の他、地震、大雨、渇水や寒波といった自然災害など、数多くの困難を経験しながらも、市勢の進展に伴い増加していた水需要に対応するため、新たな水源を求めて数度にわたる拡張事業を進めてまいりました。この間、市民の皆さま始め、各界の方々からいただいたご支援、ならびに、熱意と英知をもって今日の水道事業を築き上げてきた先人たちに、心より感謝申し上げます。

本市の水道事業は、市民生活や都市活動を支えるライフラインとして、本市の成長と発展を支えてまいりました。その役割は、市民の皆さまの豊かな暮らしを支えるものとして、ますますその重要性が増すとともに、100年先の未来にも、仙台の水道を確実に引き継いでいかなければなりません。

この100年目を迎えた節目に、改めて水道事業の社会的責任を胸に刻み、信頼される仙台市の水道であり続けていく必要があると決意を新たにします。今後とも、本市水道事業に対する市民の皆さま、関係各位のご支援をお願い申し上げます。

東日本大震災を振り返って

給水開始100周年を機に本市の水道事業を振り返るにあたり、東日本大震災は忘れることのできない大きな出来事です。平成23年3月11日14時46分に発生した巨大地震とその後に襲った大津波により、各地に甚大な被害をもたらした東日本大震災は、たくさんの人々が、大切な家族や住む家、脈々と築き上げてきた多くのものを失うという深い爪痕を残しました。水道局では、他都市の水道事業者や民間事業者の応援隊とともに、発災直後から応急給水活動や破損した水道管などの修繕など、困難な環境の中、連日連夜作業に取り組みました。また、給水所では学校や施設の職員、町内会をはじめとした地域の皆さまに献身的なご協力をいただきました。

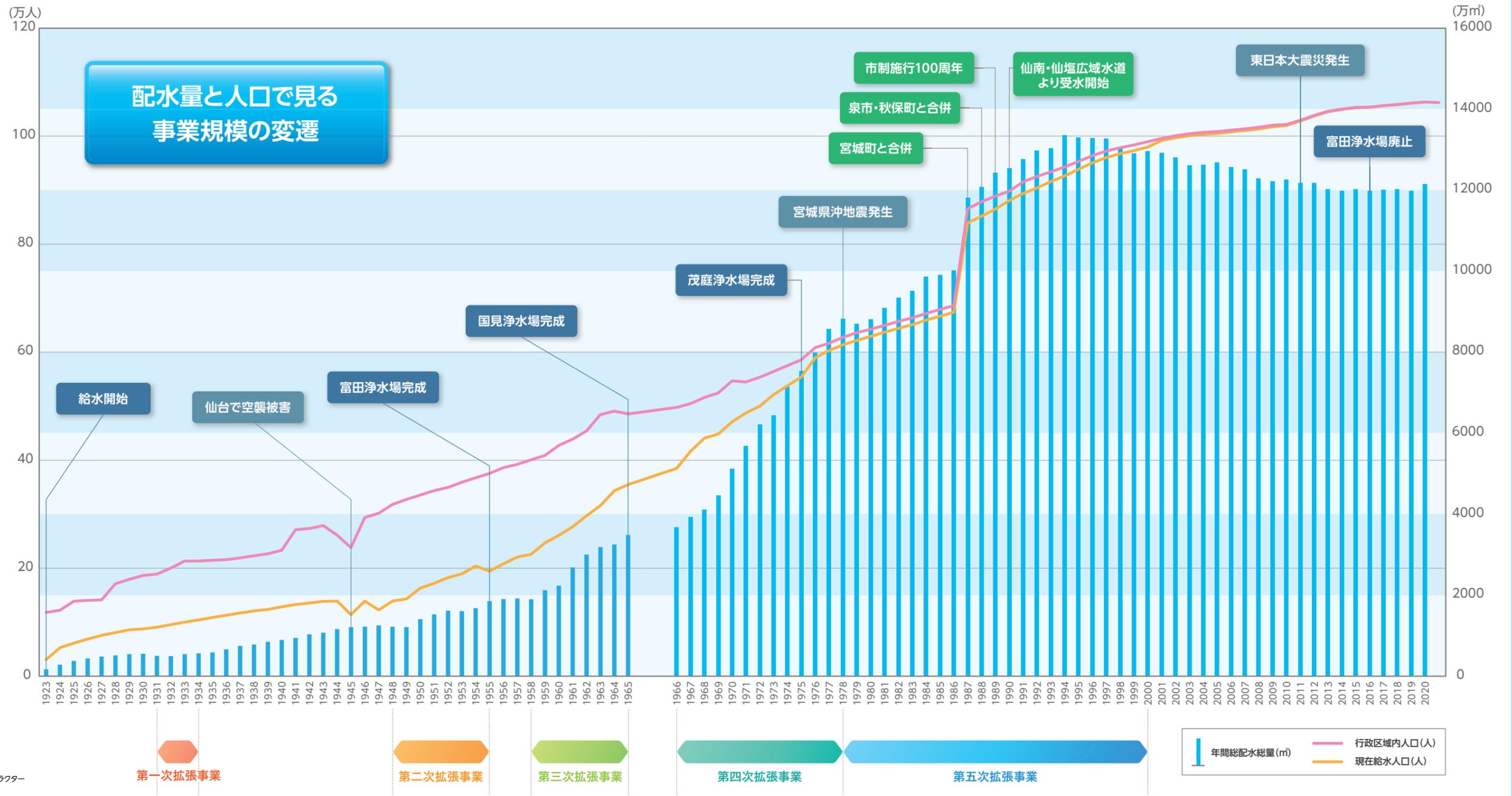
東日本大震災は、被災地のみならず、日本全体に大きな課題と教訓を残しました。私たちは、事業そのものをもう一度見つめなおし、再構築していくことで、より一層災害に強い水道を目指していかなければなりません。そして、苦労や葛藤を経験した私たちだからこそ、この事実に向かってしっかりと向き合い、伝えていかなければならないという思いを強くしております。



仙台水道の歴史



ウォーターくん
仙台市水道局
マスコットキャラクター



主要トピック



大正12年(1923年)
中原浄水場完成



大正12年(1923年)
給水開始



昭和8年(1933年)
青下ダム完成



昭和30年(1955年)
富田浄水場完成



昭和40年(1965年)
国見浄水場完成



昭和50年(1975年)
茂庭浄水場完成



平成5年(1993年)
水道記念館開館



平成19年(2007年)
水道局コールセンター
開設



平成26年(2014年)
水道修繕受付センター
開設

※浄水場の完成年は、全面通水の年としています。

水道創設期

大正2年～12年(1913年～1923年)



中原浄水場事務所

仙台で初めての近代水道は、広瀬川の支流である大倉川に水源を求めました。大倉川から中原浄水場へ水を運び、浄水して荒巻配水所へと送り、市内へと給水するというものでした。伝染病の心配がない安心して飲める水、産業の発展に欠かすことのできない水。人々の水道への熱い想いを受けての事業でしたが、第一次世界大戦の勃発による物資の不足と物価の高騰のため幾度となく工事は中断され、事業の完成には、予定の3倍の11年の年月を要しました。完成後、市内への給水を開始したのは大正12年3月31日のことでした。



内務大臣 原敬署名の
中原浄水場着工認可書



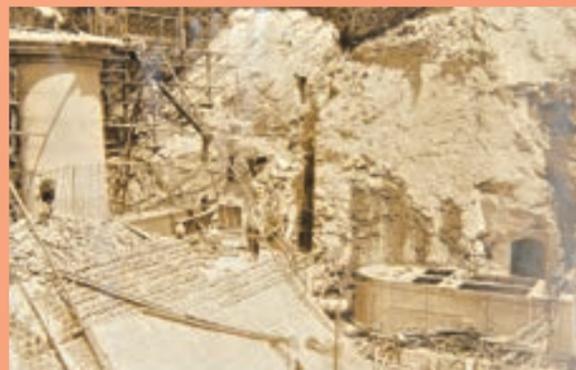
苦地取水口
(中原浄水場系統)



中原浄水場緩速ろ過池
かき取り風景(再現)

第一次拡張事業

昭和6年～9年(1931年～1934年)



青下第一ダム築造風景

創設当時は一般家庭に水道メーターが設置されておらず、いくら水を使っても同じ料金だったため、水道使用量は計画の2倍にも達しました。また、周辺町村との合併により給水区域も拡大し、新たな水源が必要となっていました。そこで、広瀬川の支流である青下川にダムを建設し、そこを水源とする第一次拡張事業が開始されました。

現在の青下水源地は、そのほとりに水道記念館が建てられ、水源かん養林に囲まれながら当時の建築物とともに保全されています。



送水管布設の
作業風景



中原浄水場系
完成式典



青下水源地事務所

第二次拡張事業

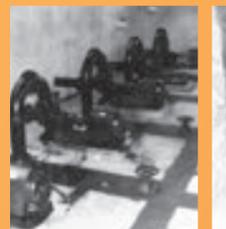
昭和23年～30年(1948年～1955年)



富田浄水場取水ポンプ室

第一次拡張事業により、給水事情はしばらく小康を得ましたが、水の需要は年々増加し、昭和10年代中頃には再び水不足が叫ばれるようになりました。太平洋戦争が終わり、戦禍を受けた水道管の復旧を急ぎましたが、戦後の復興とともに人口は急増、水不足の解消は進みませんでした。

第二次拡張事業では水源を名取川に求め、富田浄水場から大年寺山配水所を経由して給水することとし、市内への給水体制の強化を図りました。



富田浄水場
取水ポンプ



大年寺山隧道



大年寺山配水所

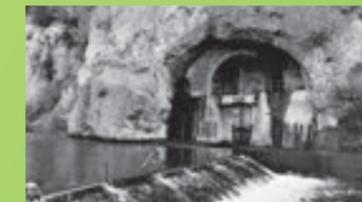
第三次拡張事業

昭和33年～40年(1958年～1965年)



大倉ダム堤体築造風景

恒久的な水不足対策として、大倉川を水源とする拡張事業は戦前から検討されていましたが、太平洋戦争の影響で中止となるなど、なかなか実施には至りませんでした。戦後、第二次拡張事業と並行し水不足への抜本的対策の検討が進められ、大倉川にダムを建設し、大量の水源水量を確保する新たな計画が策定、推進されました。大倉ダムの放流水を取り入れた水は、国見浄水場から主に市中心部へと給水され、危機的な水不足は一応の解消を見ました。



苦地取水口(国見浄水場系統)



国見浄水場建設風景

第四次拡張事業

昭和41年～53年(1966年～1978年)



完成後の茂庭浄水場

昭和40年代になると、仙台市は『新産業都市』としてさらなる発展を見せ、人口の増加と産業活動の高度化、水洗トイレの普及などにより、水の需要は伸び続け、その後も増えることが見込まれていました。そこで川崎町に建設された釜房ダムの水を確保するとともに、本市最大の浄水場である茂庭浄水場を整備し、給水能力を大幅に増加させました。



釜房ダム堤体築造風景



完成後の
釜房ダム取水塔



鉤取山配水所

第五次拡張事業

昭和53年～平成12年(1978年～2000年)



七ヶ宿ダム築造風景

第五次拡張事業の開始当時は、東北自動車道や東北新幹線の開通効果により、人口の集中と産業の集積が続くことが予想されていました。さらに、昭和62年度には隣接する宮城町、泉市及び秋保町と相次いで合併し、これらの市町の上水道事業と簡易水道事業を継承することにより給水区域が大幅に拡大しました。長期的な展望で安定した給水体制を確立するため、七ヶ宿ダムを水源とする宮城県内の「仙南・仙塩広域水道」から水を受け入れる施設整備を進めました。

また同時に、中央配水幹線や水運用システムの整備などにより、各浄水場水系間で水を相互に融通することで、災害にも強く効率的な水運用も可能となる施設整備も進めました。平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、長期の停電、管路網の被害、県広域水道の受水停止も重なり、断水率は一時約50%にも達しましたが、第五次拡張事業で構築したバックアップ機能により断水区域の縮小化と早期の給水再開につなげることができました。



仙南・仙塩広域水道の送水管
(資料提供:宮城県企業局)



中央配水幹線

現在の 主要施設と 給水区域

1 青下第一ダム

仙台市が青下川に建設を進め、昭和8年に完成した玉石貼りが大きな特徴の水道専用ダムです。



2 茂庭浄水場

第四次拡張事業により昭和41年から昭和50年にかけて建設した浄水場です。釜房ダム貯留水を水源としています。



3 中原浄水場

大正2年から12年にかけて創設事業により建設し、昭和52年に全面更新をした浄水場です。大倉川表流水、大倉ダム放流水及び青下ダム貯留水を水源としています。



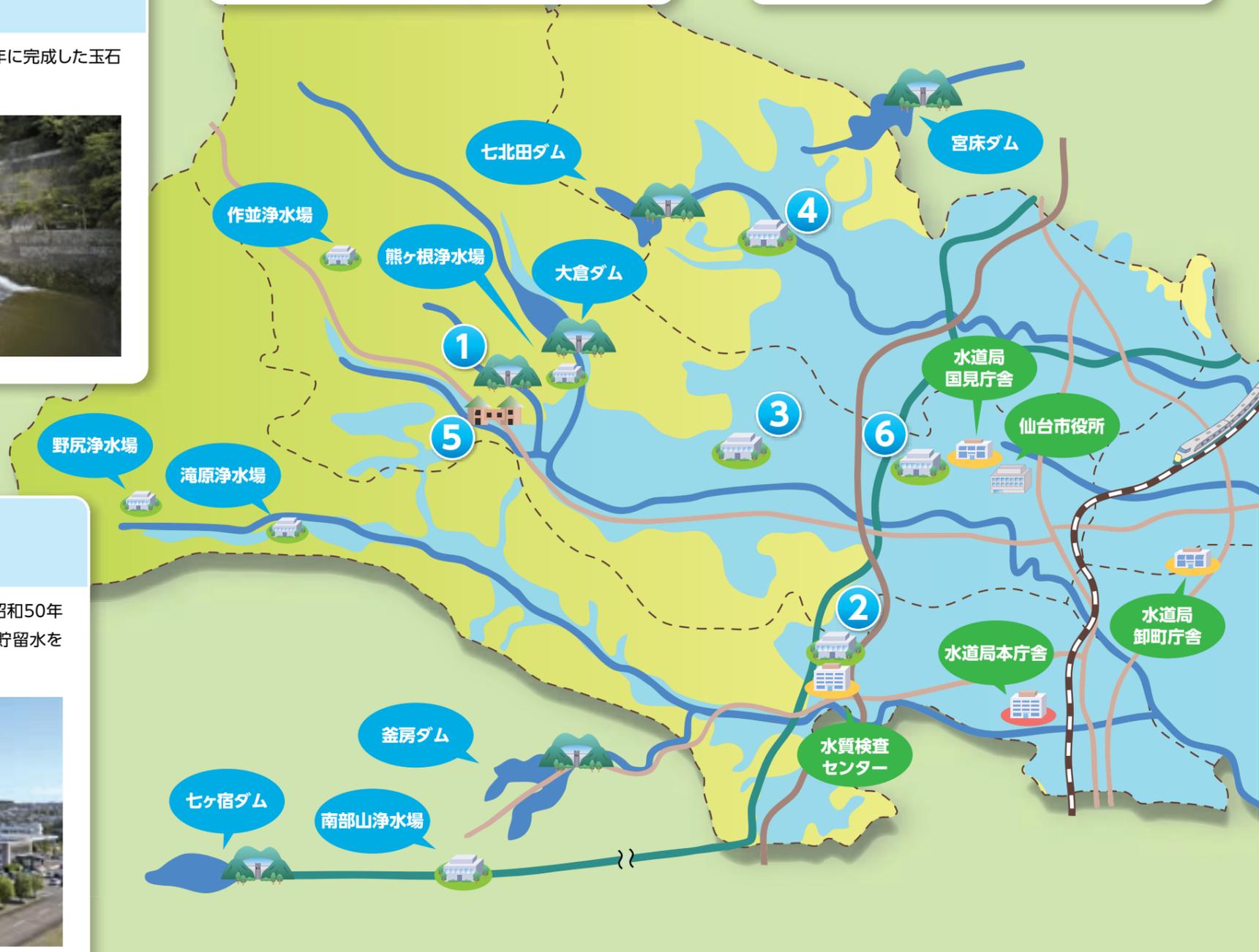
4 福岡浄水場

昭和55年から昭和58年にかけて建設した浄水場です。七北田ダム放流水及び宮床ダム貯留水を水源としています。



5 仙台市水道記念館

仙台市の水源のひとつである青下水源地内に給水開始70周年記念事業の一環として建てられました。水道のしくみや歴史、水と森林・環境の関わりなどを楽しみながら学べる施設です。



凡例	
	給水区域
	ダム
	浄水場
	県広域水道送水管

6 国見浄水場

第三次拡張事業により昭和33年から昭和40年にかけて建設した浄水場です。大倉ダム放流水を水源としています。

